

令和 4 年 5 月 26 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H04522

研究課題名(和文)ベトナム東北部諸言語に見られる借用漢語音の研究

研究課題名(英文)A phonological study on the Sinitic loan words in the languages spoken in the northeast Vietnam.

研究代表者

吉川 雅之 (Yoshikawa, Masayuki)

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：30313159

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 8,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究ではベトナム社会主義共和国の東北部で話されている複数の地域言語に対して、野外調査による基礎語彙の記録を行い、記述した音韻体系を共時的視点から分析した。そして語彙に含まれる漢語由来の形態素の音価や、文書の朗読に際して用いられる漢字音について、通時的視点から考察した。また、隣接する中国の広西壮族(チワン族)自治区に分布する壮語(チワン語)の1地点についても基礎語彙の記録と文字資料の収集を行った。更に、これらの言語集団で用いられる文書に記された漢字および漢字系文字が、漢語由来の要素の史的变化を解明する手段として、地理的変異(方言)の発音に即して有効利用できることを示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、語彙に含まれる漢語由来の形態素の音を「借用漢語音」と称する。ベトナム東北部から中国南部の広西にかけての、広大な「漢字文化圏の南方周縁部」に分布する諸言語に見られる借用漢語音の特徴を、幾つかの言語について明らかにできた。言語形成や言語接触という点で、既存の説の中に再検討を要するものがあることも分かった。また、学術成果を学界に対して発信するだけでなく、大学教育や社会に還元する活動として、学内生向けセミナー、市民講座、そしてベトナムから専門家を招聘しての学術講演など、多様な活動を展開した。

研究成果の概要(英文)：In this study, we recorded the basic vocabulary by field research on the regional languages spoken in the northeast Vietnam, and analyzed the phonological system from a synchronic viewpoint. Thereafter, we examined the phonetic values of the morphemes borrowed from Han Chinese and the sounds of the Chinese characters used for reading the document, from a diachronic viewpoint. Additionally, we recorded the basic vocabulary and collected textual materials of a dialect of Zhuang languages spoken in the Guangxi Zhuang Autonomous Region of China, located opposite the China-Vietnam border. Furthermore, we demonstrated that the Chinese characters and/or the Sinoform scripts used in the documents of these languages can be utilized, in accordance with the sound of each geographic variant or dialect, to clarify the historical transition of the linguistic elements borrowed from Chinese.

研究分野：中国語学

キーワード：歴史言語学 記述言語学 野外調査 漢字系文字 借用語 言語接触 ベトナム東北部 広西壮族自治区

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

ベトナム東北部は、国家語たるベトナム語(ベト語)以外の言語が数多く分布し、地区によってはモザイク状の分布を呈する地域である。分布する諸言語を言語系統論の観点から挙げると、タイ・カダイ語族(タイ語、ヌン語など)、ミャオ・ヤオ語族(ザオ語など)、チベット・ビルマ語派(口語など)、漢語派(ガイ語など)と複数の語族・語派に及ぶ。それらはベトナム国内では少数民族語として扱われているが、その大多数は決して孤立した存在ではない。国境の対岸、中国の広西壮族(チワン族)自治区には近縁の言語種が見出される。中国側の南部チワン語とベトナム側のタイ語やヌン語が系統論上極めて近い関係に在ることは、Li(1977)をはじめとする先行研究で見解の一致するところである。

これらベトナム東北部の諸言語には、多寡の差は有れども漢語由来の借用語が見られ、歴史時代に於いて漢語からの影響を受けた、延いては漢語との接触を経験したことが窺われる。しかし、漢語由来の借用語が学術の場で議論される機会は多くなかった。漢字で記された文書を読誦する際に用いられる漢字音についても同様である。これとは対照的に、広西の諸言語については、体系的な語彙調査とそれに基づいた研究が、中国で精力的に進められている。ヌン語と近縁である南部チワン語の各下位グループをはじめとして、境内の諸言語 24 地点の基礎語彙を国際音声記号で対照させた『広西民族語言方言詞彙』(2008 年)はそうした調査の成果の一つであろう。そこに掲げられた語形から、各言語とも歴史的に漢語からの語彙借用が頻繁に行われてきたことを疑う余地は無い。こうした言語事実は、中越国境の両側に分布する諸言語が共に「漢字文化圏の南方周縁部」を担う存在であることを意味している。そのため、国境を超越した高い次元から、借用漢語音や漢字音およびその形成過程を研究することが望まれていた。

ベトナム側の諸言語について音韻体系と基礎語彙の記述が実現すれば、中越国境を跨ぐ諸言語を視野に入れた、共時的視点と通時的視点からの借用漢語音および漢字音研究が可能になる。

2. 研究の目的

本研究は、ベトナム東北部で話されている諸言語を研究対象とし、野外調査により基礎語彙の記録を行い、共時的視点から音韻体系を記述し、そして語彙に含まれる漢語由来の形態素について通時的視点から形成過程を考察するものである。語彙に含まれる漢語由来の形態素の音価を本研究では「借用漢語音」と称することにする。ベトナム東北部を起点として、中国広西まで含んだ、広大な「漢字文化圏の南方周縁部」について、借用漢語音や漢字音の形成過程を明らかにすることは、国境を跨ぐ両地域の言語史、特に漢語との接触史についての再検討を提起する基盤となる。それは「漢字文化圏の東方周縁部」に位置する、我が国の漢字音の形成過程との比較という長期的な視座からも重要である。

3. 研究の方法

研究は、学術成果の公表に至る以前に、以下の各段階を踏まえて進められた。

(1) 言語調査と文献調査

吉川(研究代表者)はタイグエン省などでサンジウ語について、清水(研究分担者)はバクカン省バクカン市でタイ語について、それぞれ野外調査を行い、言語データを記録した。また、当該言語集団が用いる文書の撮影も行った。平野(研究協力者)はヌン語、蘇(研究協力者)は広西のチワン語について、同様の作業を行った。これら現地を訪問しての調査は2020年2月までに数回行ったが、その後はCOVID-19の世界的流行が原因で海外渡航が極めて困難になったため、継続して行うことができなかった。この点が真に惜まれる。

尚、調査項目は、基礎語彙の調査に先んじて、プリンストン大学の『漢語方言詞彙調査手冊』(1972年)や『東南アジア大陸部言語調査票』(2003年)所収ベトナム語語彙リストなど既存の調査票と、『壮語方言研究』(1999年)等に収録された語彙リストを勘案して選定した。

(2) データの分析と考察

記録した語彙に対して、音価を頭子音、脚韻部(もしくは主音と末音)、声調の三側面から分析し、借用漢語音を抽出する作業を行った。

サンジウ語については、同種の言語の地理的変異(即ち方言)に対する調査も行い、複数の地点間で語形が対応する項目については、音の対応関係を帰納した。サンジウ語は複数の語彙層から成ると考えられるため、借用元の体系の推定は、古代漢語音だけでなく、中国華南に分布する漢語派諸言語の漢字音を広く参照して進めた。

タイ語については、宗教儀礼で用いる漢字音を収集すべく、タイ族の宗教職能者(Thày Tào)によるテキスト『遶棺科』の読み上げ音声を記録し、かつテキスト(漢字・コックグー転写字)の電子化を行った。

(3) 他地域の言語に見られる借用漢語音や漢字音との関係

他地域の言語に見られる借用漢語音や漢字音との類似や相異といった問題については、吉川

が中国華南の諸言語（チワン語やミエン語）清水がベトナム語を比較対象に選び、それぞれ考察を進めた。ミエン語はベトナム東北部にも分布が見られる言語種である。

4. 研究成果

(1) ベトナム東北部の諸言語の借用漢語音および漢字音について

サンジウ語については、吉川が2020年に日本漢字学会第3回研究大会で口頭発表を行い、韻母の特徴を論じた。サンジウ語は基礎語彙に漢語音を多く含む。例えば、数に関わる語は全て漢語由来である。身体部位や動物名も大多数は漢語由来である。但し、この言語の基層に非漢語が存在する可能性は高く、指示詞などはタイ・カダイ語族に属する諸言語に見られる形式を彷彿とさせる。とはいえども、主体を成す層は漢語由来であり、漢語派の一種と位置付けることは妨げないと判断する。尚、口頭発表では、古漢語（中古音）の枠組みに従って分析を行った。

タイ語については、2020年に清水の論文「Một giả thuyết về quá trình phát triển chữ Nôm Tây - Dưới góc độ tiếp xúc ngôn ngữ giữa hai dân tộc Việt và Tây」(On the Development of Tay Nom: from the Viewpoint of Viet-Tay Language Contact)が『Journal of Viet Nam Hoc』に掲載された。表音文字要素の通時的な推移を通して、タイ語がベトナム語と長期にわたって言語接触を経てきたことを明らかにした。

ヌン語については、平野が有声子音についての研究を進め、その成果がSEALS(東南アジア言語学会)の雑誌『SEALS Special Publication. Papers from the 30th Conference of the Southeast Asian Linguistics Society』に掲載された。

チワン語については、蘇が収集データを分析する作業を進めた。

(2) 他地域の言語に見られる借用漢語音や漢字音について

吉川は2017年に第29回北米漢語言語学会議(NACCL-29)に参加し、中国湖南省のミエン語の宗教職能者が読経の際に用いる漢字音と口語語彙に含まれる借用漢語音の関係について口頭発表を行った。発表内容の一部は、後に当該会議のプロシーディングスに掲載された。2018年には日本漢字学会第1回研究大会に参加し、読経の韻律についての口頭発表を行い、先行研究Purnell(1998)で報告されているパターンとの違いに言及した。

清水は2018年にThe 51st International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguisticsに参加し、チュノムを根拠として15世紀のベトナム漢字音について論じた。

(3) 漢字系文字の利用とその意義について

ベトナム東北部の言語集団が用いる文書を撮影し、その文字情報を記録することは、本研究の開始時点で既に調査項目の中に含まれていたが、文書の読誦音は借用漢語音のデータとしては副次的なものとして位置付けていた。ところが、実際に現地でも文書を朗読してもらい、その字体情報と字音情報を整理・分析する過程で、文書に記される漢字および漢字系文字(タイ・ノムや古壮字)は現地の方言音に従って字体が選択される場合が少なくないことに気付いた。そこで、チュノムや中国華南の漢語派諸言語に見られる新造字も含め、ベトナム東北部から中国華南に至る地域で文書に使用されている漢字系文字に対する考察も本研究で推し進めることにした。

清水は2019年にハンプルク大学で開催されたワークショップに招待され、文書についての口頭発表「Buddhist Scriptures Written in Chinese and Vietnamese Chu Nom Preserved at the Library of Kyoto University」を行った。また、2020年には論文「Sino-Vietnamese initials reflected in the phonetic components of 15th-century Nom characters」が『Journal of Chinese Writing Systems』に掲載された。

チュノムや古壮字には多くの独特な字体が含まれるが、複雑な文字構造を呈するものも少なくない。本研究では、その造字法の解明にも力を注いだ。そして、造字法を通言語的視点から解釈すべく、2019年12月にシンポジウム「字体と造字法の創造力——漢字文化圏の周辺部より問う」を組織し、口頭発表を行った。その後、シンポジウムでの発表内容を発展させるための期間を用意し、発展的内容まで含めた図書『漢字系文字の世界』を2022年3月に刊行した。本書は漢字系文字の横断的比較を国内で初めて実現した専門書である。また、漢字系文字を地理的変異の発音に即して利用することで、漢語由来の影響の解明が可能となることを示した、意欲的な学術書となっている。

(4) 国外の研究者との交流

2017年11月にはベトナムからハノイ国家大学のTrần Trí Dõi教授(専門はベトナム少数民族の言語と文化)を招聘し、大阪大学と東京大学で「CÁC NGÔN NGỮ VÙNG ĐÔNG BẮC VIỆT NAM VÀ NHỮNG YẾU TỐ GỐC HÁN TRONG NHỮNG NGÔN NGỮ ĐÓ」(ベトナム東北部の諸言語とその中の漢語借用語)という題で講演いただいた。2019年3月には台湾から国立政治大学のDavid Holm教授(専門はチワン語・古壮字・チワン文化)を招聘し、大阪大学と東京大学で「Methods of Analysis for Vernacular Character Texts: Taking Complexity and Emergence into Account」という題で講演いただいた。いずれの講演も来場者との間で活発な意見交換が行われ、貴重な交流の機会となった。

(5) 研究成果の大学教育や社会への還元

本研究では、研究成果を学界に対して発信するだけでなく、大学教育や社会に還元することも重視した。大学教育に還元する試みとしては、2021年3月に東京大学で学内生向けセミナーをオンラインで行った。セミナーでは分担者清水と協力者2名(笹原と立石)の計3名が登壇して、それぞれチュノム、日本製漢字(即ち国字)、古ペー文字(即ち方塊白文)の特徴およびその記載媒体についての講演を行い、受講者との間で有意義な交流が行われた。吉川は司会を務めた。

社会への還元としては講演3件を行った。いずれも招待講演である。清水は2018年3月に行われた日本漢字学会の設立総会記念シンポジウムで登壇し、「日本における漢喃(ハンノム)研究 回顧と展望」という題で研究史を概説した。吉川は2018年5月に東洋文庫アカデミア講座「漢字研究最前線 漢検漢字文化研究所東京講座」で登壇し、「中華圏の漢字系文字と変形漢字」という題で古壮字などの漢字系文字と漢語派に見られる新造字について紹介を行った。また、2019年8月には東洋文庫アカデミア講座「漢字の歴史と最新の動向」で登壇し、「中国語の漢字音 史的变化と地理的変異」という題で漢字音の基本情報について解説を行った。

<引用文献>

Li, Fang Kuei. *A Handbook of Comparative Tai*, University of Hawaii Press, 1977年
広西壮族自治区少数民族语言文字工作委员会(編)『広西民族語言方言詞彙』、民族出版社、2008年

Princeton University, Chinese Linguistics Project. *Handbook of Chinese dialect vocabulary* (漢語方言詞彙調査手冊)、Princeton University, 1972年

上田広美『東南アジア大陸部言語調査票(カンボジア語、ラオス語、タイ語、ベトナム語)』(「環太平洋の言語」成果報告書)、東京外国語大学外国語学部、科学研究費補助金「特定領域研究(A)『環太平洋の「消滅に瀕した言語」にかんする緊急調査研究』」「東南アジア大陸部諸言語に関する文法・語彙調査」(課題番号:13019201)、2003年

張均如など『壮語方言研究』、四川民族出版社、1999年

Purnell, Herbert C. Putting it all together: Components of a secular song in lu Mien. In Chelliah, S. & de Reuse, W. (eds.) *Papers from the Fifth Annual Meeting of the Southeast Asian Linguistics Society 1995*, Arizona State University, 1998年

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 Hirano, Ayaka	4. 巻 61
2. 論文標題 Grammaticalization of Some Verbs in Serial Verb Constructions in Nung	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Research Institute. Kobe City University of Foreign Studies	6. 最初と最後の頁 137-158
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Hirano, Ayaka	4. 巻 8
2. 論文標題 The Split of Proto-Tai Voiced Stop Consonants in Nung of Trang Dinh District	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 SEALS Special Publication. Papers from the 30th Conference of the Southeast Asian Linguistics Society	6. 最初と最後の頁 25-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 吉川 雅之	4. 巻 -
2. 論文標題 サンジウ語の韻母について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本漢字学会第3回研究大会予稿集	6. 最初と最後の頁 31-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Shimizu, Masaaki	4. 巻 4
2. 論文標題 Sino-Vietnamese initials reflected in the phonetic components of 15th-century N?m characters	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Chinese Writing Systems	6. 最初と最後の頁 183 ~ 195
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2513850220936774	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shimizu, Masaaki	4. 巻 1
2. 論文標題 On the Development of Tay Nom: from the Viewpoint of Viet-Tay Language Contact	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Viet Nam Hoc	6. 最初と最後の頁 38-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.6928/JVNH	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉川 雅之	4. 巻 -
2. 論文標題 シンポジウム 字体と造字法の創造力 漢字文化圏の周辺部より問う 趣旨説明	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本漢字学会第2回研究大会予稿集	6. 最初と最後の頁 127-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水 政明	4. 巻 -
2. 論文標題 チュノムの造字法	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本漢字学会第2回研究大会予稿集	6. 最初と最後の頁 143-153
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 蘇 柳朱	4. 巻 -
2. 論文標題 古壮字の字体と造字法について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本漢字学会第2回研究大会予稿集	6. 最初と最後の頁 155-161
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshikawa, Masayuki	4. 巻 2
2. 論文標題 An Introductory Study on the Pronunciation and the Tone Pattern of Chinese Characters in the Recitation of Panwang dage in the Mien Language	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of the 29th North American Conference on Chinese Linguistics	6. 最初と最後の頁 567-583
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 グエン・ティ・オアイン, 清水 政明	4. 巻 37(2)
2. 論文標題 ベトナムの漢字研究 漢文訓読の問題など	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本語学	6. 最初と最後の頁 40-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 吉川 雅之	4. 巻 -
2. 論文標題 ミエン・ヤオ「盤王大歌」の読経漢字音と韻律について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本漢字学会第1回研究大会予稿集	6. 最初と最後の頁 115-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件(うち招待講演 5件/うち国際学会 10件)

1. 発表者名 Shimizu, Masaaki
2. 発表標題 Philological Study of Vietnamese History -Nom Materials for 19th-Century Southern Dialect-
3. 学会等名 A state-of-the-fields workshop on Vietnamese Linguistics, Typology and Language Universals, Harvard Yenching Institute (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shimizu, Masaaki
2. 発表標題 Dialectal features of Nom characters in the Sino-Nom version of Phat Thuyet Thien Dia Bat Duong Kinh 佛説天地八陽經
3. 学会等名 The 12th International Convention of Asia Scholars (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 清水 政明
2. 発表標題 漢字・字喃対訳版『佛説天地八陽經』所収字喃の方言的特徴について
3. 学会等名 東南アジア学会第103回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shimizu, Masaaki
2. 発表標題 Qua trình bien doi he thong van trong phuong ngu Nam bo tu the ki 19 den the ki 20 qua cu lieu Nom (チュノム資料から見る19～20世紀南部方言の韻体系の変化過程)
3. 学会等名 The 5th International Conference on Vietnamese Studies (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉川 雅之
2. 発表標題 サンジウ語の韻母について
3. 学会等名 日本漢字学会第3回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shimizu, Masaaki
2. 発表標題 The Diversity of Vietnamese Nom Characters in Two Medieval Vietnamese Sutras
3. 学会等名 Colloquium on Literacies across East Asia (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 清水 政明
2. 発表標題 チュノムの造字法
3. 学会等名 日本漢字学会第2回研究大会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 蘇 柳朱
2. 発表標題 古壮字の字体と造字法について
3. 学会等名 日本漢字学会第2回研究大会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shimizu, Masaaki
2. 発表標題 Buddhist Scriptures Written in Chinese and Vietnamese Chu Nom Preserved at the Library of Kyoto University
3. 学会等名 Workshop on New Directions in Research on Sinoxenic Scripts and Manuscripts, the Centre for the Study of Manuscript Cultures, University of Hamburg (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shimizu, Masaaki
2. 発表標題 The Tonal System of Ancient Vietnamese Written in Chu Nom Documents
3. 学会等名 29th Meeting of the Southeast Asian Linguistics Society (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉川 雅之
2. 発表標題 ミエン・ヤオ「盤王大歌」の読経漢字音と韻律について
3. 学会等名 日本漢字学会第1回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shimizu, Masaaki
2. 発表標題 Sino-Vietnamese Readings in the 15th Century -evidence from the Chu Nom materials-
3. 学会等名 The 51st International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shimizu, Masaaki
2. 発表標題 Qua trình doc chu Nom trong van ban co Viet Nam
3. 学会等名 Workshop quoc te ve van hoa Viet Nam (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sanui, Ayaka
2. 発表標題 The phonological system of Tay in Bac Kan Province
3. 学会等名 International Seminar on Languages and Linguistics in Middle Mekong Region & Special Workshop on Faunal Lexicon in Mainland Southeast Asia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 清水 政明
2. 発表標題 日本における漢喃(ハンノム)研究 回顧と展望
3. 学会等名 日本漢字学会 設立総会記念シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoshikawa, Masayuki
2. 発表標題 The rhyme system and its feature of the pronunciation of Chinese characters used in Mien language chanting sutra
3. 学会等名 The 29th North American Conference on Chinese Linguistics (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 吉川 雅之、清水 政明、荒川 慎太郎、笹原 宏之、蘇 柳朱、矢田 勉、山下 真里	4. 発行年 2022年
2. 出版社 花鳥社	5. 総ページ数 184
3. 書名 漢字系文字の世界	

1. 著者名 蔣 為文、清水 政明、他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 五南圖書出版股圖有限公司	5. 総ページ数 342
3. 書名 越南文化：從紅河到九龍江流域	

1. 著者名 中川 正之、木村 英樹、ラマルル・クリスティーン、吉川 雅之、他	4. 発行年 2017年
2. 出版社 朝日出版社	5. 総ページ数 792
3. 書名 中日言語研究論叢	

1. 著者名 沖森 卓也、笹原 宏之、吉川 雅之、清水 政明、他	4. 発行年 2017年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 192
3. 書名 漢字	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>吉川雅之研究室ホームページ：研究助成と学術イベント「ベトナム東北部諸言語に見られる借用漢語音の研究」 http://www.ac.cyberhome.ne.jp/~hongkong-macao/grant-in-aid_2017-2020.html</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	清水 政明 (Shimizu Masaaki) (10314262)	大阪大学・言語文化研究科(言語社会専攻、日本語・日本文化専攻)・教授 (14401)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協力者	チャン・チー ソイ (Tran Tri Doi)		
研究 協力者	ホルム デビッド (Holm David)		
研究 協力者	笹原 宏之 (Sasahara Hiroyuki)		
研究 協力者	立石 謙次 (Tateishi Kenji)		
研究 協力者	平野 綾香 (Hirano Ayaka)		
研究 協力者	蘇 柳朱 (Su Liuzhu)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------